資料２

## ○はこだて医療・介護連携サマリーの全国展開について

・　本市では，医療と介護の連携を推進するため，平成27年に「函館市医療・介護連携推進協議会」を設置したほか，翌平成28年には，地域で統一された医療・介護の情報共有ツールの整備を進めるため，有識者等による「情報共有ツール作業部会」を設置し，当部会において関係者との協議を重ね，「はこだて医療・介護連携サマリー（以下，サマリー)」を作成，平成29年から正式運用を開始した。
　なお，現在は年２回のモニタリング調査により，サマリーの活用状況を確認するとともにサマリーの運用等に関する意見を集約し，適宜，改善を図っている。

・　一方で，医療・介護連携におけるＩＣＴの活用の推進という面では，本市においてID-Linkが医療・介護関係者が利用するＩＣＴツールとしてスタンダードな位置づけとなっていることを鑑み，令和３年に，ID-Linkを運用している道南MedIkaと市との間の，連携の仕組み作りを進めることと合わせ，情報共有ツールとしてのID-Linkの有用性の情報発信について，医療・介護連携支援センターの取組みに位置づけ，周知・啓発を進めることとした。

・　令和４年には，ID-Linkの活用による医療と介護の連携が活発に行われるよう，「医療・介護連携ID-Link活用推進ワーキンググループ（以下，ＷＧ)」を設置し，現在，ＷＧの取組みの一つとして，医療・介護関係者がID-Linkによりサマリーを情報共有する場合のメリット・デメリットの分析や，課題の抽出などを行っているところである。

・　このような中，厚生労働省が主催する「社会保障審議会　介護給付費分科会」の委員や，「健康・医療・介護情報利活用検討会　介護情報利活用ワーキンググループ」の構成員を務める産業医科大学の 松田 晋哉 教授から，全国の医療・介護関係者が利用可能な情報共有ツールの標準様式の作成を進めるにあたり，本市のサマリーをたたき台としたいとのお話をいただいた。

＜ 協 議 事 項 ＞

以上のことを踏まえ，本協議会としては，全国的な医療・介護関係者間の情報共有の推進の一助となるよう，松田晋哉教授が情報共有ツールの標準様式の作成を進めるにあたり，「はこだて医療・介護連携サマリー」をたたき台とすることを承認したいと考えているが，如何か。